

議員と語るかい報告書

(横川：No.1)

開催日時	平成26年5月9日(金) 19:00~20:30
開催場所	横川総合支所
参加人数	13人
出席議員 (6名)	平原 志保、有村 隆志、塩井川 幸生、宮本 明彦、宮内 博、 下深迫 孝二、木野田 誠
役割分担 【3班】	班 長 (塩井川 幸生) 副班長 (宮内 博) 記録係 (木野田 誠)

<意見交換会での主な意見>

- ◆ 1. 市営住宅の跡地は良い場所なので、売却など利用方法はないか。売り地の看板でも出ていればわかるのだが。

【議員回答】市議会でも未利用地は処分しなさいと言っている。太陽光発電や新築をご希望の方は支所に相談をしてほしい。

- ◆ 2. 市営住宅400戸のうち90戸程が空き家である。入居希望者のニーズに合っていないのではないか。外装は塗装等されているが内装はされておらず、20年前の水回りの型などでは入居したまらない。議会でも現状を見て段階的にリフォームするよう執行部にもつないで欲しい。

【議員回答】次の入居が決まらないときれいにしないので、退去後はきれいにするよう執行部へは言っている。市は順次100万円ほどかけ風呂など改装を行っている。若い世代向きの間取りにも問題がある。市営住宅改善事業(25年~27年)で1億300万円の予算をかけ、居住性の向上を図る改善事業も行っている。

- ◆ 3. 開発公社の塩漬け土地は、合併時から現在までどれくらい減ったか。

【議員回答】公社は解散方向ではあるが、時期は明確にできていない。開発公社の持っている土地を市が買い戻している状況であり、26年度に公社のあり方の結論を出すを理解している。

- ◆ 4. 市営住宅の一つの策として、土地の評価と同様、家賃を地方により変えることはできないか。

【議員回答】 部屋数や所得により家賃は異なる。家賃は下げられないため、政策的なもので対処できないか考えていく必要がある。公営住宅法では減免制度があるが、申請主義であるため活用が少ない。たとえば週1回でも良いので、地域で遊びや学童保育等を

実施するなど、環境づくりに地域も努力してほしい。

- ◆ 5. 昔は史談会に補助があった。史跡案内の看板等劣化しており補助金等はないか。

【議員回答】具体的な設置場所等を教育委員会へ伝えてほしい。なかなか進まない場合は、地元議員を活用してほしい。

- ◆ 6. 総合支所の職員が減り本庁に集約されるため、今後、組織活動ができなくなる。

また、支所の空間だけが残るため、分散化はできないか。

【議員回答】合併協議会で、10年後を目途に本庁方式にしていくことが決められている。

支所の空間については、民間に使わせるなど、議会でも知恵を出していきたい。本庁増築による一極集中は、災害時の対応の面からも不十分との指摘をしてきたが、合併し、福祉予算等が増える中では、集約により人件費を減らすしかない。

- ◆ 7. 集約することで市民や職員が満足するのか、人件費を削るだけでいいのか、他に方法はないのか、慎重審議をして欲しい。職員削減は理解するが、市の防災体制や保健師の集約など、どう考えるか曖昧であるため明確に示してほしい。たとえば、保健師を一般職にも使ったらどうかと思う。

【議員回答】担当の委員会等でもその提案は持ち返り、議論したい。

- ◆ 8. 2年前から社会教育活動の一環として学校応援団があるが、他の地域にあるか。

魅力のある町にするための秘策はないか。

【議員回答】学校応援団は国分西小学校はやっている。学校応援団はどこがどういったことをしているか調べて報告する。地域の人口減対策として、たとえば学校を国際学校にし、英語で授業をすることで小学生が増えた事例もある。